

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p><b>校訓</b> 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p><b>教育目標</b> 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p><b>めざす学校像</b> 『進学も部活動も元気な、生徒が主役の学校』 部活動の盛んな進学校として、地域から愛され、信頼される学校をめざす</p> <p><b>育てたい生徒像</b> ○ 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 ○ 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 ○ 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>
---

<p><b>2 現状分析</b></p> <p>文武両道の校風のもと、全人的発達を目指した教育を伝統的に進めており、その教育方針については、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいているが、近年の進学実績において、前年度を下回る状況が見られる。なお、生徒・保護者アンケートでは、本校の目指す教育を好意的に評価いただいております。今後は、入学生の学力、伝統の校風を維持発展させるためには、生徒の学力伸長のための具体的手立てや部活動との両立の方法を学校全体で取り組んでいく必要がある。また、生徒一人ひとりの抱える問題に対応した個別の指導を進めていく必要がある。</p>
---

<p><b>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b></p> <p>【平成26年度の重点目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習習慣の確立と学力の向上</li> <li>② 第一進路希望の実現</li> <li>③ 部活動・学校行事等の活性化</li> <li>④ 豊かな心の育成</li> <li>⑤ 積極的な情報発信</li> </ol> <p>【平成26年度チャレンジ目標】 「実践躬行」 自ら考え判断して、責任のある行動をとろう</p>
---

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習習慣の確立	学習意欲を喚起する指導とともに、課題を適切に課し、評価することにより、学習習慣の確立をはかる。	4: 学校評価アンケートで、「家庭学習を行っている」の割合が80%以上 3: 学校評価アンケートで、「家庭学習を行っている」の割合が60%以上 2: 学校評価アンケートで、「家庭学習を行っている」の割合が40%以上 1: 学校評価アンケートで、「家庭学習を行っている」の割合が20%以下	2	学習意欲を喚起する指導方法の改善や、適切な課題を課し、評価することは概ねできているが、課題を出さない、遅れるといった状況もみられた。そのような状況は、学校評価アンケートで「家庭学習を行っている」の割合が60%に達していないことに現れている。学年別では、3年生が80%を超えているのに対して、2年生は50%に届かず、1年生は40%という状況である。学年が上がるにつれて家庭学習はできるようになっているが、低学年の家庭学習が不足している。このような状況なので達成度は2とした。	・先生方は、生徒の学力向上に向けて頑張られているが、生徒が家庭で学習する習慣は、定着していないようである。宿題等を課して提出しない生徒には、部活動の練習を禁止するようなペナルティーを与えることも必要ではないか、結果をもたらさず指導が必要である。また、勉強する意味を考えさせ理解させるためには、教育講演会等の実施や個人面談を早期にすることが必要ではないかと思う。	B
	学力の向上	研究授業・互見授業を通して授業改善をすすめて、学力の向上につなげていく。	4: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の割合が80%以上 3: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の割合が60%以上 2: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の割合が40%以上 1: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の割合が20%以下	3	5教科全てで研究授業を実施し、互見授業も積極的に教科の枠を超えて行われるようになり、様々な形で授業改善が行われた。その結果として、授業アンケートでは「授業で学んだことが身についた」という割合が、80%近くに達した。学年別では、3年生は83%、2年生は80%、1年生は74%であった。学習習慣の確立との関係もみられ、低学年ほど数値が下がっている。このような結果であるので、達成度は3とした。		
生徒指導	自転車通行マナーの徹底	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会で諸注意をする。	4: 計画どおり十分指導ができ、自転車事故が昨年度より大きく改善された。 3: 計画どおり指導ができ、自転車事故が昨年度より改善された。 2: 計画どおり指導を行ったが、自転車事故が昨年度と同様であった。 1: 計画どおり指導を行ったが、自転車事故が昨年度を上回った。	4	「1学期当初・3学期の自転車点検」・「交通安全協会との連携による自転車点検」によって整備の徹底がほぼできた。 また、「LHRにおける全校生徒対象の交通安全教室」や「登校指導」・「全校集会での度重なる注意」・「生徒による啓発運動」などにより生徒の意識付けを図ることができた。 昨年度14件であった自転車事故は今年度7件と半減した。計画性と反復性のある指導によるものと思われる。	・長府地区での豊高生の自転車通学状況はとても良いと思う。 ・部活動は、中国大会や全国大会等に多くの部活動が出場し輝かしい成果があり喜ばしいことである。ただし、練習や試合等での怪我等の体のケアには十分な時間を取らせる必要があると思う。 ・心の健康は、発達段階にある生徒にとっては大切なことであるので、担任の先生や部活動の顧問の先生にも生徒の相談に優しく対応してもらいたい。	A
	部活動・学校行事等の活性化	部活動加入の推進、生徒活動の場の提供を行うとともに、平素から指導および支援を行う。	4: 80%以上の生徒が活発な活動をした。 3: 60%以上の生徒が活発な活動をした。 2: 40%以上の生徒が活発な活動をした。 1: 活発な活動をした生徒が40%未満であった。	4	部活動については、全体の加入率が90%を超えており、さらに今年度は全体的に中国大会以上の出場等も多く、活躍したと思われる。 また、学校行事や平素において、生徒の主体的活動の機会が多く持たれ、学校全体としては活発な活動がなされた。		
	心の健康の保持	担任の活動を尊重して、担任をサポートする。	4: 担任を支援し、サポート役として機能した。 3: 担任と情報を共有した。 2: 担任との連絡が不足していた。 1: 担任が抱え込み孤立した。	4	メンタルの面で問題を抱える生徒が増加する中で、各学年ごとに教育相談担当を配置し、迅速に対応できるようにして、それぞれ担任を支援し、サポート役として十分に機能した。また、教育相談会で話し合ったり、スクールカウンセラーと連絡を取ったりして、生徒及び担任を支援した。		

進路指導	初期指導の徹底	入学段階での学習習慣の確立につながる取り組みを実施する。	4: 十分な実施ができた。 3: ほぼ実施ができた。 2: あまり実施できなかった。 1: ほとんど実施できなかった。	3	初期指導に関しては、学年を中心に取り組み入学後の学習習慣の確立をはかった。十分な成果が得られたとは言いがたいが、学習に対する姿勢を早い時期から意識付けすることはできた。今後は、日々の家庭学習の定着化へ繋げていけるよう取り組んでいきたい。	・生徒の進学に対する意識の向上が必要である。意識付けは、継続して行う必要があると思うので、教務や学年とも連携して取り組んで欲しい。 ・進学校として、大学入試の結果が最も重要と思うので、しっかりと取り組んで頂きたい。	B
	進路情報の提供の充実	HR棟の掲示板やキャビネットでの資料提供、学年ごとの進路新聞の発行などで情報の提供を行う。	4: 十分な実施ができた。 3: ほぼ実施ができた。 2: あまり実施できなかった。 1: ほとんど実施できなかった。	3	進路新聞の発行は各学年毎に実施したので、タイムリーな情報提供ができたのでよかった。進路資料室での情報提供や各クラスへの配布物を通しての情報は充実していたが、HR棟の掲示板やキャビネットについては十分な利用ができず、課題が残る。		
総務	学校安全の徹底	学期ごとに施設設備の安全点検を実施する。	4: 施設設備安全点検実施率が90%以上であった。 3: 施設設備安全点検実施率が70%以上であった。 2: 施設設備安全点検実施率が50%以上であった。 1: 施設設備安全点検実施率が50%未満であった。	4	各学期に全教員が担当掃除区域ごとに安全点検を実施した。不良箇所については事務室の協力により補修ができ、安全な学校生活ができる環境になった。	・地震による津波等の避難訓練等の安全対策を今後も十分に検討されて実施して頂きたい。 ・保護者アンケート結果では、学校の情報が十分に保護者に伝わっていないようであるので検討して頂きたい。特に学校で配られた各種便りや保護者宛のプリント等が手元に届くようにお願いしたい。 ・図書を取り組みと図書便りはとても良いと思う。図書室の利用をさらに活性化させ、本に親しみを持つ生徒を増やして頂きたい。	B
	情報提供の充実	分かりやすいホームページや配付するプリント等で、役立つ学校情報の整理・発信を行う。	4: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%未満であった。	3	2年前に豊浦高校ホームページを業者委託で新しく作製し、きれいで見やすいホームページになった。また、ホームページ担当者会議も5回実施し、内容の更新・充実を行った。		
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた資料を整え、貸出の増加を図る。	4: 昨年度より貸出数が大幅に増加した。 3: 昨年度より貸出数がやや増加した。 2: 昨年度と貸出数が同じであった。 1: 昨年度より貸出数が減少した。	3	ベストセラーを中心にドラマ化されたもの等生徒・教職員の希望する本を多く入れているため、貸出数の増加につながった。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生 15%以上、2年生 25%以上、3年生 35%以上をめざし授業の充実を図る。	4: 3学年とも目標以上であった。 3: 2学年において目標以上であった。 2: 1学年において目標以上であった。 1: 全学年とも目標に達していない。	4	本校は運動部の活動が盛んで、体育の授業においても豊高体操を始め体力を培う場面が多く、体力・運動能力の向上が顕著である。	・豊高の生徒達は、挨拶が良くできている。今後も部活動等での指導をお願いしたい。 ・スポーツテストの結果も非常に良く生徒の体力向上に努めて頂きたい。	A
	健康の保持増進	継続的に個別・集団の保健指導を行い虫歯の治療率を上げる。	4: 治療した者が50%以上であった。 3: 治療した者が40%以上であった。 2: 治療した者が30%以上であった。 1: 1学年において目標以上であった。	3	部活動が盛んで受診時間の確保が難しいと考え、部の顧問から受診を促してもらったところ昨年度より治療率が上がった。		
1年	学習習慣の確立と将来を見据えた進路目標の設定	初期指導の充実をめざした取り組みから、豊高生にふさわしい学習習慣の確立を支援する。また、LHR・総合で計画した取り組み等を通して理想の将来像を確立させ進路目標の設定を促す。	4: 十分な指導を行い、学習習慣の確立と進路目標の設定につながった。 3: 十分な指導を行ったが、学習習慣の確立と進路目標の設定につながらなかった。 2: 指導があまり十分ではなく、学習習慣の確立と進路目標の設定につながらなかった。 1: 指導が全くできず、学習習慣の確立と進路目標の設定につながらなかった。	3	学習習慣確立の方策として、チャレンジタイム、学習時間量調査、スタディーサポート等初期指導を充実させる様々な取り組みを実施した。毎日家庭学習に励む生徒もいるが、1学年全体としては確立には至っていない。また、大学訪問やオープンキャンパスレポートの提出等を課し、進路意識の向上を目指したが、全員が明確な進路目標を設定するにはもう少し時間を要する。	・学校全体が、生徒も職員も絶対に目標を達成するという強い気持ちを3年間持ち続ける必要があると思う。目標が、絵に描いた餅にならないような取り組みをお願いしたい。 ・各学年と進路・教務等とも連携しながら継続した指導をお願いしたい。	B
2年	学習習慣を確立させるとともに各自のキャリア形成能力の育成	生徒各自が将来の自分の在り方・生き方を考えつつ、自主的に学習を行い、人生設計を図りながら人として必要な資質を形成していく。	4: 年間を通して十分な指導ができた。 3: 年間を通してほぼ十分な指導ができた。 2: 年間を通してあまり指導ができなかった。 1: 年間を通して全く指導ができなかった。	3	勉学と部活動の両立に苦しみながら、生徒一人ひとりが大きく成長した。その中で、自分の人生設計が明確に描けた生徒は意欲的に取り組む姿が見られ、目標に向かって懸命に努力している。しかしながらそれが描けない生徒もおり、これから個に合ったきめ細やかな指導が必要とされる。		
3年	学力の向上と進路実現のための自己開拓力の強化	進路指導の徹底を図るため、面談・個別指導を行う。進路資料室の積極的な活用を図る。	4: 年間を通して十分な指導ができた。 3: 年間を通してほぼ十分な指導ができた。 2: 年間を通してあまり指導が出来なかった。 1: 年間を通して全く指導が出来なかった。	3	進路指導の徹底を図るため、個別面談・保護者(三者)懇談を毎学期実施した。また、個別指導も必要に応じて実施した。その際、朝礼や毎月の学年会議での先生方の気づきや意見を参考に、共通理解の下で指導を行った。進路資料室は学校調べというより自習室としてほぼ毎日20時まで開放し、毎日10名程度利用していた。		
業務改善	業務の効率化	各種会議時間を短縮し多忙化の解消を図る。	4: ほぼ全ての会議が1時間以内に終了した。 3: 約8割の会議が1時間以内に終了した。 2: 約6割の会議が1時間以内に終了した。 1: 1時間以内に終了した会議は、6割未満であった。	2	会議資料の事前配付等により、大半の会議は、概ね勤務時間内には終了した。今後も会議等の精選を図り多忙化の解消を図りたい。	・スクラップ・アンド・ビルドで各業務を精選して頂きたい。 ・教員が自己管理意識を持つことも大切ではないかと思う。	B
	職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行う。	4: 再検査者の受診率が、100%であった。 3: 再検査者の受診率が、80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が、70%以上であった。 1: 再検査者の受診率が、70%以下であった。	2	2月の衛生委員会において、職員の健康管理についての報告があった。今後、再検査受診率を100%に近づけるように努めたい。		

## 6 学校評価総括（取組の成果と課題）

【教務】 成果として研究授業の実施、教科をこえた互見授業の実施や授業アンケートで「授業で学んだことが身についた」という割合が、80%近くに達したことから先生方の授業改善が進んだことがあげられる。課題として、家庭学習が低学年ほどできていないことがあげられる。課題を課しても出さないなどの生徒に対して粘り強く指導していくなど、授業改善を学力向上に結びつけるために、家庭学習時間の増加に向けた取組が必要である。

【生徒指導】 組織的、計画的な指導や繰り返しの指導、早期対応の指導により、各種問題を最小限に抑えることができた。交通安全に関しては、「自転車事故」、「自転車マナーの悪さに対する苦情」は少なからず残る。引き続き生徒の意識を高揚させよう根気よく指導したい。生徒活動の活発化については、生徒が主体的に活動する場を多く設けることで部活動・学校行事等の活性化を図ることができたが、学習面での自主性が課題として残る。各学年担当の教育相談係を設けることや中学校と連携した新入生の事前調査、学校カウンセラーの活用により、様々な問題が概ね解決し、担任のサポート役として教育相談室がよく機能した。しかし、メンタル面の弱い生徒は年々増加傾向にあり、これからも継続して連携した指導体制が必要である。

【進路指導】 チャレンジタイムをはじめとして、大学訪問、家庭学習時間量調査等、1年次における意識付けはしっかりできたと思われる。これを、2年次3年次と進学に対する意識の継続とそれに対する学習への取り組みを定着化させていくことが今後の目標である。また、大学の学部改編や入試制度の多様化に対する情報提供を、今年度に引き続き実施していくことも生徒の意識付けには必要である。

【総務】 施設設備の安全点検は毎学期実施し、不良箇所の補修を行った。情報活用能力の向上を図るための校内研修も実施し、セキュリティ意識が高まった。また、豊浦高校ホームページを2年前に新しく業者委託で作製し、きれいで見やすいホームページになった。ホームページ担当者会議は計画通り開催し、本校ホームページの整理、充実が行われた。図書においては今年も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい資料を提供できるように努めた。

【保健体育】 体育の授業や運動部の活動を通して、体力・運動能力の向上は図られている。歯の治療については、毎学期の治療勧告を強化し治療率の向上を図りたい。

【第1年次】 昨年度導入した豊高チャレンジの2年目ということもあり、指導はスムーズに行うことができた。実際チャレンジタイムでは生徒は意欲的に学習に取り組む、もっとたくさんやってほしいという意見もあった。時間を確保すると生徒は学習に取り組むが、家庭での自主性に任せるとなかなか学習が進まない状況もあり、チャレンジタイムのような時間を確保しての自習時間は本校では効果的であると考え。またいかに生徒の学習意欲を喚起し、自主的に学習に取り組ませることが今後も継続する課題である。

【第2年次】 高大連携、進路講演会、教育講演会、オープンキャンパスへの参加、大学合同ガイダンスへの参加、その他の進路情報等を通して生徒各自が自分の歩むべき道について考えるようになり、その結果として勉学や部活動を行う意義を理解して、より質の高い活動が行えるようになった。各自の夢の実現を確実にするために効果的な指導を継続して行いたい。またその一方で、依然として意識の低い生徒がおり、これからそれらの生徒に対して、どのようにして意識改革を促していくかが課題である。

【第3年次】 進路指導については、担任の先生方を中心にきめ細かく指導できたと思われる。また、小論文指導や面接指導についても学年団の先生方で分担して指導できたと思われる。しかし、全体的に進路に対する生徒の意識が漠然としていて、具体的なものが少し不足していたと思われる。「将来の目的のために、どのような勉強が必要で、それがどこで学べるのか。」といったもので、それが調べられる部屋として進路資料室を開放しているものの、自習室としての使い方がメインとなった。年度当初に放課後学習を薦め、自習室3カ所をほぼ毎日20時まで開放した結果、例年以上に放課後学習をする生徒が増えた。

【業務改善】 業務の効率化と職員の健康管理は、今後も継続して取り組む必要がある。

## 7 次年度への改善策

【教務】 1年生のチャレンジタイム後、引き続き家庭学習時間を確保させる指導を行うとともに、全学年が来年度から取り組む朝学を充実させることで短時間でも集中して学習する習慣を身につけさせることで、家庭や学校での学習時間を増やすよう支援していきたい。また、引き続き研究授業や互見授業の実施を通じて、授業改善を行い、生徒一人ひとりの学力向上ができるようにしていきたい。

【生徒指導】 「交通安全教室」については、体験的な学習により、マナーや事故の恐怖をより真剣なものとして捉えさせたい。生徒自身が命への意識的を強く持てるような指導することが大切である。「生徒活動の活発化」については、色々な場面で生徒会主体の呼びかけを実施することは一つの改善策であると思われる。「教育相談」について、中学校との連携、各学年担当の設置、教員間の共通理解を図る、家庭との連携を充分図る等の体制には継続して力を入れたい。

【進路指導】 生徒自身の進学意識をいかに向上させるか、また学習時間をいかに確保していくか、総合的な学習の時間や進学課外等を含めて再検討し、学年との連携をより綿密にした進路指導体制を築きあげていきたい。

【総務】 施設設備の安全点検は次年度も毎学期実施したい。情報活用能力の向上を図るための校内研修も毎月実施し、セキュリティ意識を高めたい。また、ホームページ担当者会議を計画し、新しくなった本校ホームページの整理、充実を行いたい。図書においては常に新しい情報を取り入れて生徒・教職員の要望を先取りし本校図書室が読書活動のリーダーとなるようにしたい。また、図書委員による新聞発行も引き続き行いたい。

【保健体育】 体育の授業・体育的行事などを通して運動意欲を引き出し、体力・運動能力の向上を図りたい。十分な準備運動と安全意識を高め、怪我の防止を図りたい。また、歯の治療については、治療勧告の強化や保健便り等の機会に保健教育の推進を図り治療率の向上に努めたい。

【第1年次】 現状の指導を継続し、さらに有効活用していくことが肝要である。学習時間量調査、スタディーサポート等の結果を生徒に還元していくためには、個人面談が必要なので、LHRの計画に面談時間を組み込み、さらにキャリア教育を充実させるようなプログラムの実施を図って進路目標の設定につなげていくなどLHRや総合学習の時間の見直しが必要であると考え。即効性のある指導というよりも、いかに数多く、また粘り強く個別指導などを通して生徒に意識改革を促していくかが重要であると思われる。

【第2年次】 次年度は自分の進むべき道を具体的に実現していかなければならず、相当な学力の習得が必要不可欠である。そのために、一人ひとりその生徒に似合ったきめ細やかな指導が肝要となり、生徒と接する時間を増やし、保護者との緊密な連携を図りながら、生徒の将来の幸福を実現できるように考えていきたい。また、できればこれから社会で求められる人材として、答えがなかなか見出せない課題について真摯な取り組みができるような幅広い見識と広い視野、それに伴う行動力を兼ね備えた能力の種子を植え付ける方策も考えていきたい。

【第3年次】 先の総括でも記載したように、進路に対する生徒の意識が少し足りないと思われるので、この意識を向上させるような取り組みが求められる。現代社会は情報が溢れすぎているため、いろいろな情報に流されていることも否定できない。12月の学校評価アンケート（保護者）についても、項目「進路選択のガイダンスや情報提供は進路決定に役立っている」は「そう思う・ややそう思う」が全体の72.3%なので、80%以上を目標としたい。そのため、ある程度精選する必要があると思われる。

【業務改善】 担任業務の副担任との協働の明確化や部活動の週1日休日の推進を図り多忙感の軽減を行う。